

第二東海自動車道試掘調査

第二東海道自動車道横浜東海線豊田JCT建設予定地内、郷上遺跡（郷上A地点・郷上B地点・郷上遺跡）における遺跡の性格およびその範囲の確認を目的に行った。調査期間および調査面積は下記のとおりである。調査方法については、愛知県埋蔵文化財調査センター・豊田市教育委員会の事前調査をふまえて郷上A地点に8カ所、郷上B地点に4カ所、郷上遺跡に65カ所の試掘坑（トレンチ）を設定し、断面観察および各層位単位の発掘を行い、遺構の有無、遺物の出土状況を調査することとした。なお、試掘地点の遺跡名について、豊田市教育委員会と協議の上、今後「郷上A地点」「郷上B地点」をそれぞれ「本川遺跡」「川原遺跡」と呼称する。

遺跡名	調査期間	トレンチ番号	調査面積
郷上A地点<本川遺跡>	4/10～4/18	T01～T08	60m ²
郷上B地点<川原遺跡>	4/19～4/22	T09～T12	30m ²
郷上遺跡	4/23～5/22	T13～T77	480m ²

郷上A地点<本川遺跡>

調査結果から、古墳時代中期および戦国時代の二時期を中心とした集落遺跡と考えられる。

遺跡の範囲としては、T01～T07にかけて包含層が展開することから、西端はT01以西、すなわち試掘対象内の西端が想定され、東端は、T07とT08の間を想定しう。つまり、東西両側が谷状に落ち込む微高地上に遺跡が展開するものと思われる。遺構面は部分的に二面存在するが、時期的傾向としては古墳時代中期の遺構はT03周辺に、戦国時代はT04以東に集中する傾向が見られた。

郷上B地点<川原遺跡>

調査結果から、遺跡は弥生時代中期を中心とするもので、集落跡と考えられる。T13で検出した「小区画水田」はこれにともなう可能性がある。そのほかこれまでに少量の須恵器、灰釉陶器、中世陶器片などが耕作土、包含層の上部から出土しているが遺構はとらえられない。遺跡の範囲は、南西側はT11～12間、北東側については、T13、14およびT13、15間に求められる。

<郷上遺跡>

調査結果から奈良時代から戦国時代の遺跡で、柱穴様の土坑、区画溝、井戸などの遺構のあり方からみて集落跡と考えられる。遺跡の範囲は、包含層・遺構からみて西限はT62、63間、T58、59間、T60、61間に求められ東限は今回試掘の対象となった東端すなわち国道248号線までが想定される。遺構には時期差がみられるが遺構検出面は一面で、いずれも基盤層である厚い細粒～粗粒砂層に掘り込まれている。なおT65、T70の間の旧河道（もしくは谷状地形）の以西と以東では土層堆積が異なっており、以西では耕作土直下が遺構検出面でほとんど包含層が失われているのに対し、以東は耕作土の下に厚い砂層があり、その下が旧耕作土（近世）となりその直下が包含層ないし遺構検出面となっている。

（坂倉澄夫・北村和宏）

